

令和3年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す 学校像	○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校 ○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校 ○安心・安全な学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成 状況
<p>【学習指導】 分かる授業をつくりを推進し内容の充実を図るために、学力向上推進委員会を中心として校内研修会及び相互授業観察を実施し、質の高い授業実践を日々目指している。 また、コロナ禍において大きく進展したGIGAスクール構想の実現に向けて、ICT端末を効果的に活用した学習活動を推進していくことが課題である。</p> <p>【進路指導】 コロナ禍のため、インターンシップ等の進路行事が実施できなかった。今後は、オンラインによる会社見学、説明会及び試験が増加することが予想されるため、校内LAN環境整備及び職員のスキル向上が課題である。 その他、全職員が模擬面接指導に当たることにより、生徒一人一人にじっくりと向き合っ指導することができた。 また、「進路の手引き」については、「面接ノート」同様、有効に活用していきたい。</p> <p>【生徒指導】 服装や頭髪に関する指導や問題行動は減少傾向にあり、大半の生徒は落ち着いた学校生活を送っている。しかし、SNS上での情報発信によるトラブルは増加傾向にある。</p> <p>【特別活動】 コロナ禍のため学校行事が予定どおり実施できない状況ではあったが、体育的行事や文化的行事に関しては対策を講じて臨機応変に対応することができた。 部活動についても大会が中止となる中で、それぞれ工夫しながら活動した。部活動加入率については、50%を目標としたが、最終的に51%となり、目標を達成することができた。キャリア・パスポートについて、ホームルームで活用することが出来た。</p>	生徒の個人的資質の向上	○基本的な生活習慣の徹底及びコミュニケーション能力の向上 ○授業、部活動、学校行事等の学校教育活動全体をとおして達成感を味わうことにより、生徒の自己肯定感を向上 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と、分かる授業の展開による資質・能力の向上	
	商業に関する専門的知識の育成	○教科内連携による指導法の共有及び公開授業等を活用した教員のスキルアップ ○タブレット端末や電子黒板等、ICT機器の有効活用による、ビジネスに関する深い学びの実現 ○探究活動をととした、ビジネスに関する発展的学習	
	保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくり	○出前授業や学校ホームページを活用した、教育活動の効果的な情報発信による募集人員の定数確保 ○キャリアパスポートを用いたキャリア教育の充実により進路希望実現100% ○ボランティア活動や地域におけるビジネス活動の充実	
	生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくり	○カリキュラム・マネジメントにより、全職員の共通理解（同じベクトル）のもと、計画的かつ組織的な指導を展開 ○組織マネジメントの推進による、教職員間の活発な意見交換による学校運営及び業務の改善	
	安心・安全な学校づくり	○いじめ・体罰・災害等の防止及び迅速な対応 ○ホームルーム、授業、二者面談及び三者面談等による、生徒一人一人に対する丁寧な理解	
	教育活動の一層の充実に向けた業務の効率化	○各業務について、目的達成のために適切な方法となっているかの見直し ○情報の共有等の一層の推進	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科	国語	主体的で対話的な深い学びの実現のために必要な理解力や表現力、知識の習得を目指す。	授業内容の理解度を授業観察やノート等の点検を通して評価し、長期休業中も国語力を伸長できるよう課題等を工夫する。		
			I C T機器を効果的に活用し、学習の深化を図る。		
		場に応じた様々な表現の体験を通して、自己を見つめる意欲の向上を図る。	スピーチや意見交換を行うことにより、自らの考えを効果的に構成し、発表する機会を設ける。		
			文章を書くことや俳句や短歌等の韻文の創作により、論理的に説明したり、自らの心に向きあったりする機会を設ける。		
	進路に活かせるよう、漢字検定の受験を励行する。	課外や課題により、効果的な学習のサポートを行う。			
	社会	主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を行い、生徒の学習意欲を高める。	I C T機器の効果的な活用によって、生徒が取り組みやすい身近な話題を学習課題として設定する。		
			対話型の授業を展開し、発問を工夫したり、パフォーマンス課題を設定したりするよう心がける。		
	教科の基礎学力の定着を図る。	授業内容の確認プリントやノートの指導（点検）等、きめ細かい指導を行う。			
	数学	生徒の学習意欲・基礎学力を向上させる。	基礎基本的な学習内容を理解できるように問題演習の時間を十分に確保する。解説の際、電子黒板やタブレットを活用する。		
			授業中の発問や机間巡視、ワーク等の提出状況から生徒の理解度を確認し、苦手な生徒には個別指導を行う。		
	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行い、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させる。	問題演習の際、個人で取り組ませたり対話活動をさせる。また、考えを記述させたり発表させる。			
	理科	基礎的な学力の定着を図る。	生徒と教員及び生徒間のコミュニケーションを重視した授業を通して、一般常識にもつながる基礎的知識をしっかりと身につけさせる。		
日常生活にあふれる科学的事象に対する興味・関心を高める。		電子黒板やタブレット等の I C T環境を有効に活用しながら、身近な物質や現象を取りあげることで、主体的な学びを促し、科学全般に対して興味・関心をもたせる授業展開に努める。			
物理実験室・化学実験室の整備と他教科も含めた授業での有効活用を高める。		計画的に実験室の備品等の整備を進め、実験室等の活用を活発化して、実験・実習・モニター視聴等の様々な形態の授業を取り入れる。他教科にも積極的に開放し、学校全体として有効利用を促す。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科	体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体づくり運動の充実を図り、体力テストA及びBの割合を50%を目指す。		
		できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率70%以上を目指す。		
		体育的・学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	授業においてクラスマッチ種目のルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。		
		よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。		
	保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	最近話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。		
	英語	基礎学力の向上に努める。	I C T機器を効果的に用いた学習内容のスムーズな推移により、生徒の活動時間を増やすことで、知識の定着を図り、基礎学力の向上を目指す。 単元ごとに課題をおこない、学習ノートの提出により、きめ細かく、継続的に理解不足の生徒に対して指導する。		
		資格取得のための指導に努める。	全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように対策課外等を実施する。特に情報ビジネス科は主体的な習慣課題の取り組みの定着を図る。		
		実践的コミュニケーション能力の向上に努める。	A L Tとのチームティーチングを存分に活用し、主体的にコミュニケーションをすることで、リスニング・スピーキング能力を高める。 ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れ、他者との対話的なやりとりを通じて自らの考えを深めながら、コミュニケーションを積極的にしようとする態度を育成する。		
	家庭	主体的・対話的で深い学びを実現するために、基礎的・基本的な知識と技術を習得する。	I C T機器を効果的に活用し、具体的でわかりやすい授業を展開する。		
			プリント・学習ノートの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。 実験・実習を通して、コミュニケーション能力を養い、協調性や自主・自立の精神を育成する。		
		家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。		
	商業	学力・指導力の向上を図る。	生徒一人一人の実態を把握し、「わかる」「できる」「楽しい」授業を目指し、知識の定着を図る。また、探究的活動を通してビジネスに関する発展的学習を行い知識を活用する力の育成に努める。 I C T機器を利用した授業の構築や授業研究を通して、授業改善を行い、主体的・対話的な深い学びの実現に向けた指導力向上に努める。		
地域と連携した商業教育の推進や商業教育の理解をさらに深めるために、体験入学や出前授業の内容を工夫して実施する。					
ビジネスにおける実践力の育成を図る。		総合実践をはじめ、すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
校務分掌	教務	教員のICT機器活用技術向上を図り、授業改善につなげる。	全教職員が電子黒板やタブレットを積極的に活用し、授業における使用頻度を高める。 ICT機器利用技術の職員間の情報共有をして、利用技術の向上を目指す。		
		教育課程の編成に努める。	本校のグランドデザインを念頭におき、生徒たちの資質・能力を引き出し社会の要請に応えられる人材の育成を目的として、社会に開かれた教育課程の研究に努める。		
		基礎学力の低い生徒への指導を充実させ、学業不振の転退学者の減少に努める。	各学年においては積極的に朝ドリル等の機会を設け、あらゆる場面で学習習慣が定着できるよう促し、学業不振による転退学者の減少に努める。		
		内規の検討を行う。	本校の現状をふまえ、内規の問題点を話し合い、必要に応じて見直す。		
		授業時間の確保に努める。	コロナ禍により授業時間の確保が困難になる可能性も踏まえて、学校行事等の内容を吟味し、授業時間が確保できるよう努める。		
		情報の保護・管理に努める。	手引きに沿った個人情報の保護を適正に管理する。		
		HPの適正な運営と教育活動の公表に努める。	ガイドラインの作成とそれに沿った活動を活性化させ、迅速な情報の公開を心がけ、本校教育活動のPRをし、生徒募集につなげる。		
	生徒指導	学校全体で挨拶を活性化させる。	廊下等での挨拶を教職員・生徒全体で行う。		
		服装・頭髪等について校則を守らせる。	生徒の納得を得る指導をしながら登校指導、授業、休み時間等において職員間の温度差が無い指導をする。		
		ネットモラルを定着させる。	スマホ安全教室、道徳の時間、ホームルーム等でSNSの使い方、インターネットに潜む危険を指導する。		
		交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ。	校外立哨指導や、HR等で注意を呼びかける。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会等を実施する。		
		問題行動を未然に防ぐ。	立哨指導や昼休みの校内巡回を行う。服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。また、自転車の盗難防止のための鍵かけを促す。		
		教育相談活動を充実させる。	年3度の担任面談の他、スクールカウンセラーによる生徒、保護者へのカウンセリングの場を用意する。		
	特別活動	生徒会・HR活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。		
		部活動加入率60%を目標とし、年間を通してその維持に努める。	部活動所属生徒の活躍を校内や地域社会に知らせることで、各部活動の入部者を増やし、意欲的な取り組みを促す。		
			部活動の生徒を中心に、挨拶等のマナーアップ、学校周辺の美化活動等に取り組む。		
		体育的行事、文化祭等の学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	各ホームルーム役員および委員会の生徒を中心とした活動を活発化させることで、学校行事の充実を図る。		
	生徒会活動を通してキャリアパスポートを推進する。	多くの行事を通して、自ら計画・振り返りをしながら主体的な活動ができる力を育む。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
校務分掌	進路指導	多様な生徒の実態に応じたキャリア教育指導の確立に努める。	年次に応じた適切な進路ガイダンスを実施し、意識の高揚を図る。		
			キャリアパスポートや適性検査を活用し、自己理解を図る。		
			企業説明会や体験発表を実施し、進路決定に役立てる。		
			会社見学や各学校のオープンキャンパスへの、オンラインを含めた積極的な参加を促す。		
			基礎学力の向上と面接指導の充実を図る。		
			学校や企業、ハローワークとの連携を密にし、生徒に適切な情報を提供する。		
	進路に関する情報提供を充実する。		進路資料室を整備し、生徒が情報を収集しやすい環境を整える。		
			定期的にデータの整理を行い、教員間で情報を共有・活用できるように努める。		
	環境整備	清潔な環境を目指す姿勢を育てる。	教室等のワックス塗布やモップの交換を通して、生徒の美化意識の向上に努める。		
			効率よく環境整備をするためのアイデアを出し合い、創意工夫の能力の育成に努める。		
			清掃道具を速やかに補充し、生徒自らが意欲的に校内美化に取り組む環境を整える。		
	環境美化を主体的に実践しようという意欲を育てる。	より清潔できれいな学校にするための中・長期的な計画を、生徒ともに模索する。コロナ禍でも安全に学校生活が送れるよう除菌に努める。			
	保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底を図る。		
諸検診の効果的な実施に努める。保健室の効果的な運営に努める。					
専門家による性教育を実施する。					
学校生活の安全教育に努める。		防火・防災避難訓練会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。			
学習環境を整備する。		エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。			
		水質検査および室内環境検査等を実施する。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
校務分掌	図書	図書室環境を整備し、学習活動及び各種活動を支援し、情報収集・選択・活用能力を育成する。	蔵書の配置・装飾の工夫や、資料の整理・迅速な手続き処理などにより図書室を利用しやすい環境に努める。		
		読書指導と読書の推進を図り、主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努める。	1年生全員に図書室利用のオリエンテーションを実施する。アンケートにより読書への関心等の状況を把握する。		
			新刊本の表紙をカラーコピーし、資料の提供を行う。情報機器の利用を工夫し放課後等の活動に活用する。		
			リクエストボックスをとおして購入希望図書を募り、随時購入希望を受け付ける。		
			生徒発行の「図書だより」を年間3回以上発行して新着図書案内を行い、読書に対する関心を高める。その他、図書の広報に努める。		
	図書委員の自主的・主体的な活動が活発になるよう促す。	図書室内の装飾・蔵書点検・環境整備・リクエストボックスの回収等における図書委員活動の主体性を図る。			
	渉外	PTA総会・各種行事、会合への保護者の参加率を高め、学校・家庭との連携を密にする。	PTA総会をはじめ各行事への参加率を高めるための工夫・改善をする。		
			学校の教育活動を積極的に広報するため、メール配信やPTA広報紙「鬼怒」の充実を図り、保護者の学校理解を深める。		
			会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。		
			高P連やさわやかマナーアップ運動等の学校内外への保護者の積極的な参加を促し、得た情報を共有する。		
PTA支部研修会を実施し、保護者同士・職員の情報交換を行い、協力的体制を確立する。					
50周年記念事業に向けて、同窓会の組織・強化に努める。		同窓会役員との連絡を密にして、組織の活性化、強化に努め、記念事業の準備を進める。			
スクールバスの安心・安全な運行を継続する。	スクールバス運行委員会において、問題点を把握し、安心安全に通学できるようにする。				

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
学 年	一 学 年	挨拶の励行と礼節をわきまえた行動を意識させる。	HRや授業等において日常的に挨拶・正しい制服の着こなしなどの指導をと おして生徒の自律を促す。		
		時間厳守の意識を高める。	日常的に時間を守ることの重要性を意識させる指導をおこなう。また、生 徒が安心して意欲的に学校生活がおくれるよう個別面談などを実施し、生 徒が相談しやすい環境を整える。		
		鬼怒商業高校の生徒としての自覚と責任をもた せ、規範意識を高める。	本校のルールをしっかり理解させ、服装・頭髪及びスマートフォン使用に 関するモラル指導を徹底し、社会規範意識の向上に努める。		
		授業・学校行事の大切さを理解させる。	基礎学力の定着を図り、学ぶ喜びが得られるように指導をおこなう。学校 行事や資格取得に対して積極的に取り組むことで、将来の可能性が広がる ことを進路ガイダンス等で指導する。		
		進路についての意識を高めさせる。	進路ガイダンスをとおして、将来を見据えた計画性のある学習活動ができ る環境を整える。		
	二 学 年	集団生活におけるマナーを身に付け、コミュニ ケーション能力を高める。	挨拶を習慣化し、相手の気持ちを考えて行動することを、日常的に考えさ せる。また、様々な場面で、生徒同士がコミュニケーションをとる機会を 設ける。		
		ルールを守り、基本的な生活習慣を確立する。	時間や約束を守るという、社会人としての最低限度の必須項目の実践を通 して、ルールやマナーを遵守する、信頼される人物を育成する。		
		学校行事に主体的に参加し、仲間意識やリー ダー性を身に付ける。	集団生活の中でなぜルールやマナーがあるのか、その意味を理解して、他 人に迷惑をかけないよう行動させる。		
		資格取得に向けて意欲的な学習をする。	家庭学習を習慣化させ、専門科目の知識をさらに身に付け、資格取得等で 結果を残すことが出来るような指導を行う。		
		適性を把握し、その適性に合った進路を実現で きるように計画的な準備を進める。	自分の適性を学力診断を通して理解し、その上で卒業後の進路が自己実現 できるよう、適切な進路ガイダンスや、進路指導計画を实践する。また、 キャリア・パスポートの活用や、個別面談を適宜実施しつつ、生徒の個性を 伸ばし、進路活動が円滑に進められるよう指導する。		
	三 学 年	社会人となることを念頭においた規範意識及び 時間厳守の定着させる。	校則、マナー等を遵守させながら、自己中心的な行動から他人への気遣い ができる態度を促す。また、登校時間や移動教室など、あらゆる場面にお いて時間厳守の定着を図る。		
		学校行事への積極的な参加する。	コロナ禍において様々な制約の中で実施される学校行事に対して、最高学 年として後輩の模範となるような態度で意欲的に参加する。特に、昨年度 からの延期で計画されている修学旅行を有意義なものとする。		
		コミュニケーション能力の向上に努める。	進路を意識したあいさつや適切な言葉遣いのみならず、自分の意見や考え をしっかりと相手に伝えられるようなコミュニケーション能力を身につけ る。		
		生徒の進路実現に向けての支援する。	生徒全員が高校卒業後の進路を適切に決定できるよう、適切な進路行事を 計画・立案・実行し、必要に応じて個人面談や面接指導を実施するなど、 生徒の進路決定を学年職員全員で支援する。		
		情報ビジネス科における高度資格取得の実現す る。	高度資格（全商簿記1級・ITパスポート等）の合格者を多数出すことを 目指し、その成果を各自の進路実現や学校活性化につなげる。		

※ 評価基準 A：目標以上に達成できた B：目標を達成できた C：目標を下回った D：目標を大きく下回った